

② 施肥量 (成分/a)

N ~ 0.52 P₂O₅ ~ 0.68 K₂O ~ 0.48

③ 除草剤 (Kg/a)

M O 粒剤 ~ 3 Kg (7月5日)

④ 刈取り時期

出穂期 ~ 穂揃期

2) 生育収量調査

試験区名	生育収量調査							
	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	生草重 (Kg/a)	同左標比 (%)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	子実重 (Kg/a)	同左標比 (%)
1 飛驒在来 (標) (畑苗代 ~ 手植)	157	5	309	100	-	-	-	-
2 飛驒在来 (箱育苗 ~ 機械移植)	153	6	529	171	-	-	-	-
3 在来種白ピエ (畑苗代 ~ 手植)	146	7	240	78 (100)	132	11.2	24.3	100
4 在来種白ピエ (箱育苗 ~ 機械移植)	126	10	405	131 (169)	115	9.3	26.2	108

9 労働生産性からみた作物選択の指標 (農試 流通経済科)

(1) 背景とねらい

水田利用再編や畑作振興上から新規導入作物の選択する機会が多くなっている。このよう
なことから労働生産性を基準とした作物選択の指標として指導上の参考に供する。

(2) 技術内容

農業経営の目標は、作物選択を通して経営が所有する土地と労働力の組合せを経済的に効率化することにある。このような作物選択の指標となる労働生産性は、10a当たり投下労働の逆数（X軸）と、10a当たり所得（Y軸）との積としてあらわすことができる（図1.付表参照）。この図によって作物の経営的性格を次のように区分できる。（表1）。

第Ⅰ群：10a当たり投下労働800時間以上で極めて労働集約であり、10a当たり所得（50万円以上）も高いが、小面積しか作付できない作物群。

第Ⅱ群：10a当たり投下労働200～600時間で労働集約であり、10a当たり所得（10～40万円）が高く、第Ⅰ群よりやや作付面積が大きい作物群。

第Ⅲ群：10a当たり投下労働200時間未満でやや労働集約ないしは粗放であり、10a当たり所得（10万円未満）は低い、大面積を作付できる作物群。

(3) 指導上の留意点

- 1) 各作物の10a当たり生産費と所得・作付相当面積の指標は付表に掲げた。付表は現行生産農家の調査結果であるが、適用対象農家の生産技術水準が異なる場合は適宜数値を補正して利用すること。
- 2) 野菜類の粗収益単価は東京中央卸売市場の昭和51年～54年平均価格で算出しているが、大幅な価格変動が見込まれる場合は補正して利用すること。

(4) 試験成績の概要

- 1) 試験課題名 野菜の産地育成に関する経営的研究
- 2) 試験年次・場所 昭和51～53年度 農試経営部

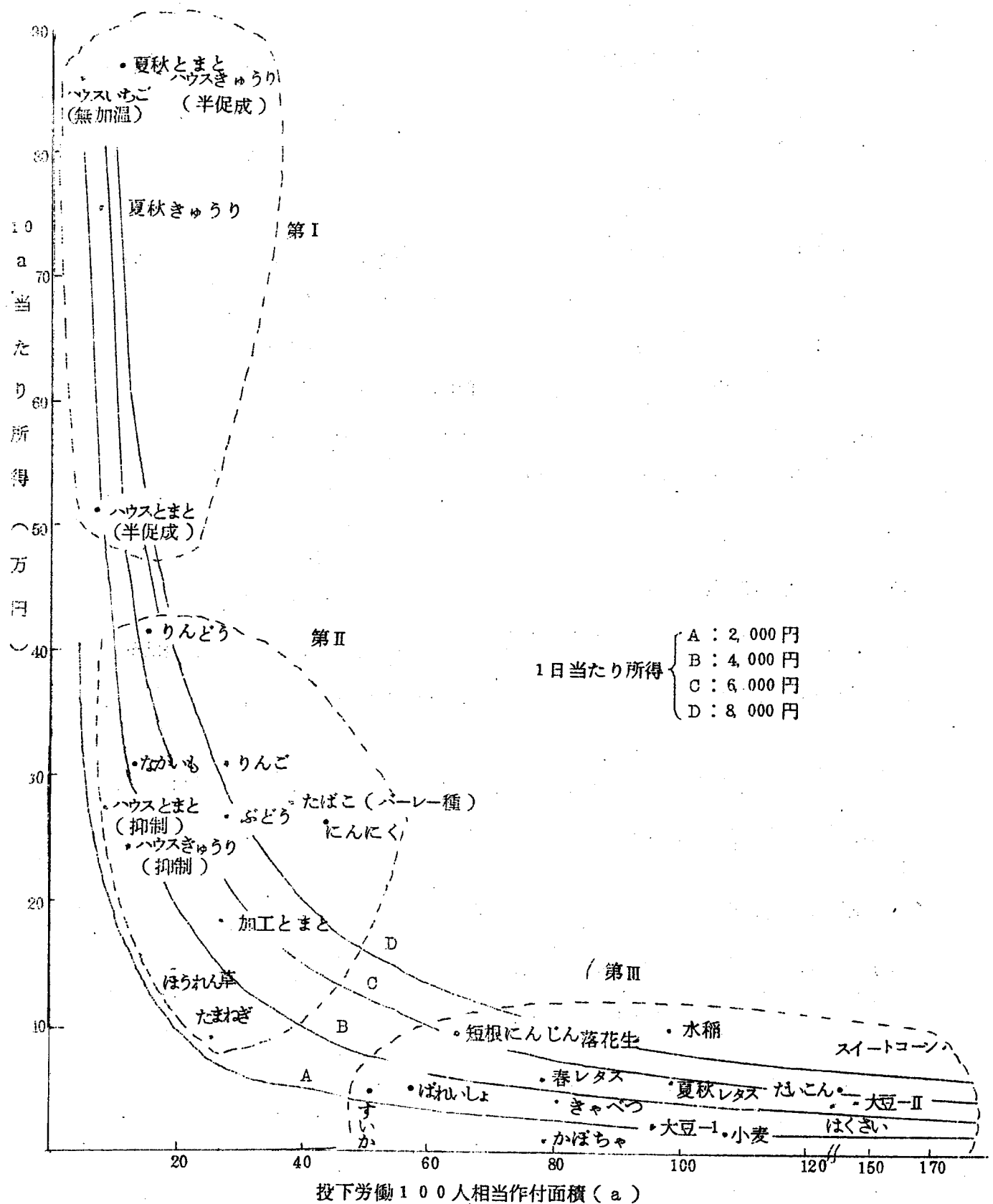


図1 労働生産性からみた作物の経営的性格

表1 労働生産性による作物の群別区分

区 分	10 a 当たり		作 付 相 当 面 積	作 物 名
	所 得	投下労働		
第Ⅰ群	(万円)	(時間)	(a)	ハウスいちご(無加温)、ハウスきゅうり(半促成)
	50万	1,000以上	7以下	夏秋きゅうり、ハウスとまと(半促成)
	以上	800以上	10以下	夏秋とまと
第Ⅱ群	40万	500以上	14以下	ハウスとまと(抑制)、ハウスきゅうり(抑制)、
)	280以上	30以下	りんどう、ながいも
	10万	200以上	44以下	ほうれん草、たまねぎ、りんご、ぶどう
第Ⅲ群	10万	100以上	80以下	すいか、ばれいしょ、短根にんじん、春どりレタス、
	未満	75以上	100以下	夏秋レタス、きゃべつ、かぼちゃ
		70未満	125以上	水稲、大豆、小麦、落花生
				だいこん、はくさい、スイートコーン

注) 作付相当面積は投下労働100人当たりの面積である。

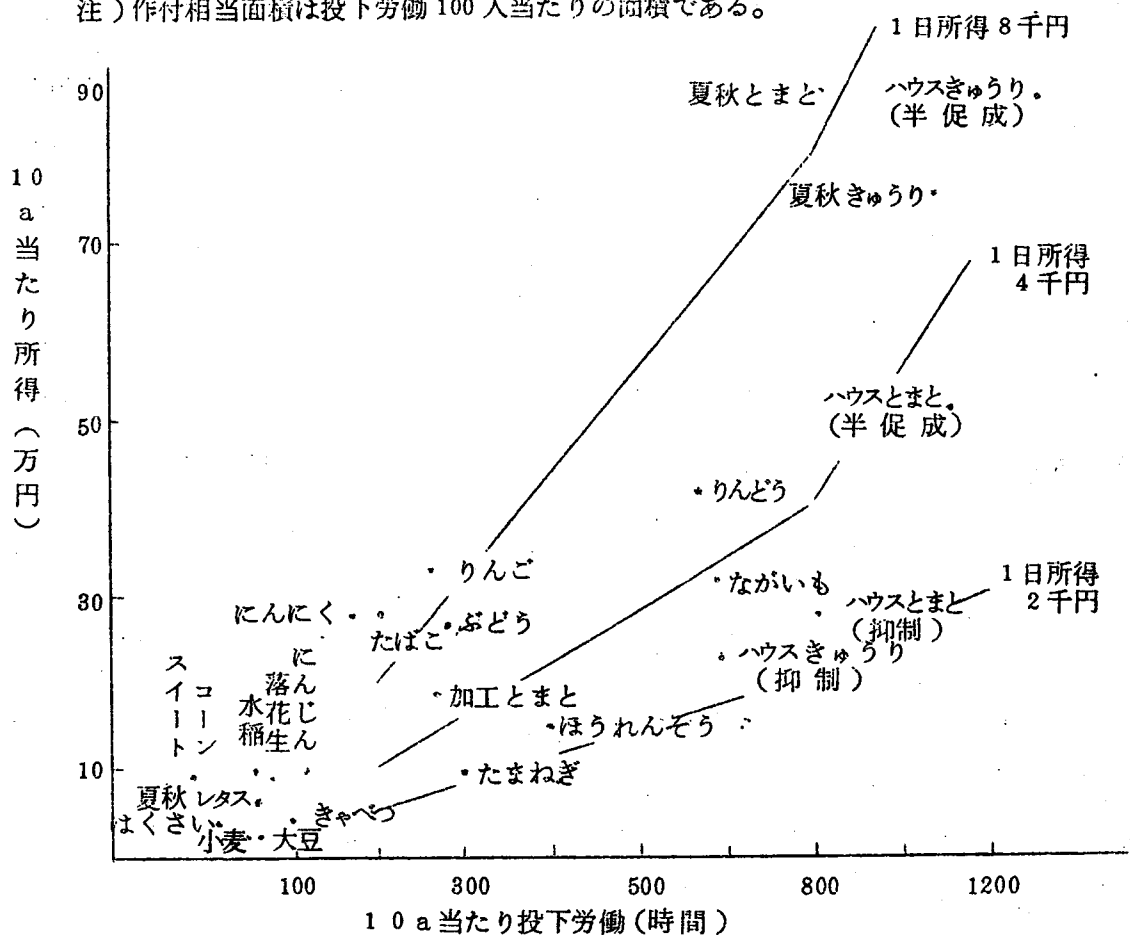


図2 10 a 当たり投下労働と所得の関係

付表 作物の10a当たり所得と作付相当面積

作物	粗収益 (円)	収量 (Kg)	第1次 生産費 (円)	所得 (円)	投下労働時間 (時間)	作付相当面積 (a)	1日当たり 所得 (円)	調査 年度
1 水 稲	163,920	564	105,920	98,929	81	98.7	9,770	53
2 小 麦	40,855	258	58,458	19,710	75	106.1	2,012	52
3 " (高収量)	54,653	332	22,329	31,824	9.5	842.1	26,799	53
4 大 豆	30,345	135	42,300	20,220	83	96.3	1,949	52
5 " (高収量)	78,000	300	60,515	41,543	54	149.2	6,154	54
6 夏秋きゅうり	1,073,532	10,856	1,052,444	752,467	1,074	7.5	5,605	53
7 " (高収量)	1,445,720	13,944	846,898	1,220,235	897	8.9	10,882	51
8 ハウスきゅうり (半促成)	1,725,000	12,421	1,215,000	861,000	1,262	16.4	5,458	53
9 (抑 " 制)	615,000	3,841	550,000	222,000	596	13.4	2,980	53
10 夏秋とまと	1,012,755	11,619	391,318	689,819	828	9.7	8,404	50
11 " (高収量)	1,344,646	15,428	350,689	1,193,208	664	12.1	14,376	50
12 ハウスとまと (半促成)	1,279,000	8,110	1,063,000	508,000	1,082	7.4	3,756	53
13 (抑 " 制)	835,000	4,612	736,000	273,000	823	9.7	2,658	53
14 春どりレタス	99,453	2,555	107,905	54,611	101	79.3	4,325	52
15 夏秋レタス	92,400	1,690	87,685	55,543	81	98.8	5,485	52
16 短根にんじん	143,920	1,080	116,953	94,248	127	65.0	5,936	52
17 スイートコーン	110,435	1,385	49,395	89,477	46	174.0	15,561	52
18 きゃべつ	68,962	4,500	90,364	41,160	99	80.8	3,326	52
19 はくさい	66,487	4,500	68,069	38,044	63	127.0	4,831	52
20 ほうれんそう	198,849	952	55,670	143,810	395	20.3	2,912	53
21 たまねぎ	201,265	3,930	212,543	87,464	307	26.0	2,279	52
22 ながいも	514,837	3,000	459,433	312,362	592	13.5	4,221	52
23 にんにく	368,873	1,132	411,399	272,406	184	43.5	11,843	52
24 ばれいしょ	145,661	2,900	196,369	48,580	139	57.5	2,795	52

作物	粗収益 (円)	収量 (kg)	第1次 生産費 (円)	所得 (円)	投下労働時間 (時間)	作付相 当面積 (a)	1日当 り所得 (円)	調査 年度
25 だいこん	80,000	4,000	50,309	50,135	64	125.0	6,266	52
26 かぼちゃ	90,019	1,633	126,219	989	101	79.2	78	52
27 加工とまと	120,000	8,350	115,942	177,755	291	27.5	4,886	52
28 すいか	119,925	3,570	126,613	46,454	163	49.1	2,280	52
29 ハウスいちご (無加温)	995,325	1,799	484,857	857,020	1,562	5.1	4,389	49
30 りんどう	884,594	31,611本	410,108	414,487	576	13.9	5,757	51
31 たばこ (パーレー種)	399,344	273	124,013	275,331	207	38.7	10,640	53
32 落花生	139,920	440	49,252	90,668	35	94.2	8,533	53
33 りんご (ア50%スター20%他30%)	483,036	2,461	239,922	307,131	281	28.4	8,743	53
34 ぶどう (キャン70%デラ20%)	374,125	1,850	203,832	265,878	282	28.4	7,542	53

注 ① 野菜類の粗収益は東京中央卸売市場の昭和51～54年平均価格で算出した。但しいちごは札幌市場の同年平均価格である。

② 所得的生産費(所得をあげるのに要した費用) = 粗収益 - 所得により逆算できる。

③ 作付相当面積は投下労働人数100人(800時間)を前提とし、これを10a当たり労働時間で割った値である。

④ 指標の作成には下記の資料を引用した。それ以外は岩手農試の調査による。

作物No.89121321～2325272832 青森農試農業経営研究資料No.53

作物No.29 東北農試農経研究資料No.45

作物No.30 山形農試研究資料No.51-7

作物No.1246 農林水産省生産費調査

作物の調査地は青森・山形農試以外は岩手県内である。